

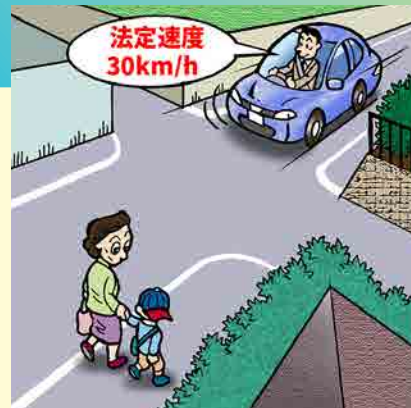
9月の安全運転ごよみ

- 1日(火)...防災の日
- 9日(水)...救急の日
- 21日(月)...敬老の日
- 22日(火)...国民の休日
- 23日(水)...秋分の日
- 21日(日)～30日(水)...秋の全国交通安全運動
- 30日(水)...交通事故ゼロを目指す日

9月の安全運転目標

交通パートナーとの事故防止

改正道路交通法施行令の施行により、2026年9月1日から、生活道路における自動車の法定速度が60キロメートル毎時から30キロメートル毎時に引き下げられます。9月には秋の全国交通安全運動も実施されるため、速度を控えるとともに、安全運転意識を高めて、子どもや高齢者との事故防止に努めましょう。



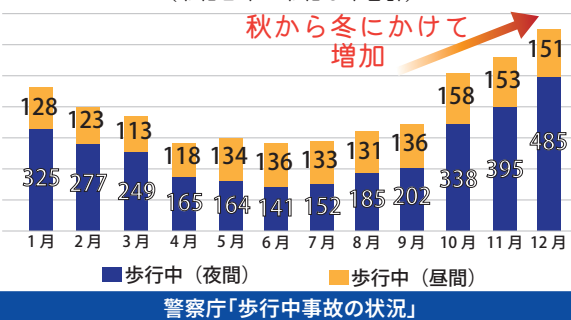
秋から年末にかけて歩行中の事故が増加

警察庁の統計によると、秋から冬にかけて、夜間の「歩行中」の交通事故死者数が増加する傾向にあります。これは日没時刻が早まり、薄暗い時間帯での運転機会が増えることが関係していると考えられます。

夜間は歩行者や自転車を発見しづらく、事故リスクが高まるため注意が必要です。

最近はオートライトやオートハイビームを搭載した車が増えていますが、少しでも暗いと感じたら装置に任せきりにせず、手動で早めにライトを点灯するとともに、周囲の状況に応じてハイビームとロービームを適切に切り替えましょう。

歩行中（第1・第2当事者）の月別・昼夜間別死者数の推移（令和2年～令和6年合計）



事故事例 夜間、道路を右側から横断してきた歩行者と衝突

2025年9月24日午後7時10分ごろ、滋賀県内の国道で、道路を横断していた高齢者が車にはねられる事故が発生。警察によると、現場に横断歩道はなく、高齢者は横断後半に、左側から来た車と衝突しています。

夜間は、道路の右側から横断してきた歩行者が、対向車の影から急に現れるリスクを意識し、スピードを控えて運転しましょう。



行動特性を意識して運転しよう

RMS ニュース

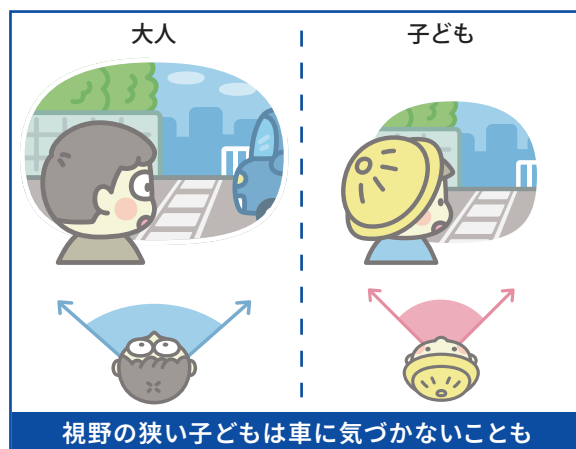
2026年9月号

「かもしれない運転」で子どもとの事故防止

9月は夏休みが明け、子どもの登下校や外出が活発になります。特に住宅街や学校周辺などの生活道路では、子どもとの事故への警戒が欠かせません。

子どもは大人に比べて視野が左右約90度と狭く、接近する車に直前まで気づかないケースがあります。さらに、興味のあるものへ向かって予測不能に飛び出してしまう特性もあります。

子どもの姿を見かけたら、「急に動き出すかもしれない」という予測運転を徹底しましょう。いつでも止まれる速度まで落とすとともに、側方を通過する際は十分な間隔をあけるか徐行することを心がけてください。



思いやり運転を実践

高齢の歩行者やドライバーとの事故を防ぐには、相手の特性に寄り添った思いやりのある運転が不可欠です。

高齢者は身体機能の低下により、車の接近に気づくのが遅れたり、横断歩道のない場所を渡り始めたりすることがあります。

そのため、高齢者の姿を見かけた際は「こちらの車に気づいていないかもしれない」「想定外のタイミングで渡り始めるかもしれない」という意識を持つことが重要です。

道路を横断してきた場合は、慌ててクラクションを鳴らすのではなく、早めに減速して十分な距離と時間を確保しましょう。



管理者として知っておきたい知識

生活道路の法定速度は**時速30キロ**

生活道路（主に地域住民の日常生活に利用されるような、中央線等がない道幅の狭い道路）の最高速度が時速30キロに制限されました。

営業エリア内や通勤経路上での規制状況を再確認して、運転者への周知徹底を図りましょう。



生活道路では時速30キロを意識して運転しよう



皆様のご意見をお聞かせください

より良い情報提供のため、取り上げてほしいテーマなど、皆様のご意見をお聞かせください。



SMASグループ
SMAサポート

©2026 SMA Support Co., Ltd